

No.74

すくらむ

2010.1発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1

センター業務から

今回は、教育指導についての報告です。

- 小集団活動
- クッキーくらぶ

P2

平成21年度研修事業より

- 特別支援教育新任担当教員研修
- 研修講座No.10
「通常学級における気がかりな子への支援」

P3

特別支援教育あらかると

- 面談において心がけていること
- 高等学校巡回教育相談会について

P4

シリーズ「学校・学級紹介」

今回は、大野市有終西小学校
わかば学級・あおば学級からの発信です。

研究発表会のご案内

日時：平成22年2月10日(水)
9:00～受付 9:30～16:00
会場：福井県立図書館 多目的ホール

☆詳しくは各学校・機関に配布の開催要項をご覧ください。
当センターのホームページからでもご覧いただけます。

多数のご参加
お待ちしております

センター業務から

教育指導 とは...

発達の遅れや気がかりな面のあるお子さん対象の、通所による指導や子育て支援を行います。

個別での指導やお子さんの状態、保護者のニーズに合わせた小集団活動、保護者支援などを行っています。

小集団活動

主に対人関係や集団参加が苦手な5歳児を対象に小集団活動を行っています。1時間の設定された活動プログラムの中で、他のお子さんとかかわる場面を意図的に設け、人とかかわる楽しさを感じたり、ソーシャルスキルを身につけたりできるように取組を行っています。

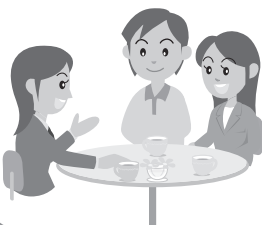
保護者の方には、別室でお子さんの様子を観察しながら、行動の様子やその理由をシートに記述していただいています。このシートを綴った「連絡ファイル」を通して、保護者の方と園、当センターがお子さんの特性や支援についての手だてを共有しています。そして、この三者が連携して移行支援シートを作成し、それぞれのお子さんが就学する学校でも支援が継続されるようにしています。

就学後もアフターフォローを行い、支援が必要なお子さんについては、学校の先生方との相談を行っています。



クッキーくらぶ

ピアカウンセリングを目的とした、保護者の方の話し合いの場を設定しています。すでに就学されたお子さんを持つ保護者の方を招いて、入学するまでの過程や、その後の学校生活についてのお話を聞き、保護者の方が就学を控えたお子さんに合った教育環境を考えていくための参考にいただいています。また、保育カウンセラーなど専門家を招いての子育て相談会を行い、家庭でのかかわり方などアドバイスをいただいています。





平成21年度研修事業より

平成21年度の研修事業から、特別支援教育新任担当教員研修と研修講座No.10「通常学級における気がかりな子への支援」を紹介します。

特別支援教育新任担当教員研修

特別支援教育新任担当教員研修(以下特新担研修と略す)は、特別支援学級や通級指導を初めて担当する先生方の資質及び指導力の向上を図ることを目的とした研修です。特新担研修は、年5回行われ、今年度は、41名の先生方が受講されています(H19年度40名、H20年度46名)。昨年度、受講者より、学級の児童生徒一人一人に応じた教材の準備に苦労されているという話を聞きました。そこで、今年度は、新たに「教材開発」を研修内容に加えました。「教材開発」に関する研修は、第3回(8月)と第4回(10月)で行いました。

第3回では、教材についてのDVDを見たり、当センターにある教材見本を参考にしたりしながら、担当する子どもたちに何をねらい、どんな教材を作るかを考えました。また、グループ協議を通して、それぞれが考えた教材について話し合いました。

第4回では、第3回で考えた教材を作成して実践した結果を持ち寄り、グループに分かれて発表し、意見交換しました。教材と実践のレポートは、共有化できるように冊子にまとめました。

受講された先生方からは、「教材についてグループの先生方とじっくり相談できてよかったです」「いろいろなアイデアをいただきました」「たくさんの先生方が作った教材が冊子になっていて、今後に活かせ大変ありがたいです」などの感想が寄せられました。

子どもたちの指導に日々追われ、一人ではなかなか取り組めない教材開発の時間と場所、そして相談できる仲間を、先生方に提供できたのではないかと思います。

特別支援教育新任担当教員研修(以下特新担研修と略す)は、特別支援学級や通級指導を初めて担当する先生方の資質及び指導力の向上を図ることを目的とした研修です。特新担研修は、



子どもに合った教材作りとは……？
みんなでアイデアを出し合いました

研修講座
No.10

「通常学級における気がかりな子への支援」

研修講座No.10は、特別支援教育ネット代表の小栗正幸氏を講師に迎え、7月28日、県立大学交流センターにて開催し、220名の方が受講されました。

午前中は、「気がかりな子どもへの支援」に関して、主に保護者と取り組む生活支援の観点や日常生活場面での約束履行支援、習癖行動の改善などについて小栗氏が実践された具体的な例を通してご講義いただきました。特に保護者支援のお話の中で、「保護者支援の究極の支援は子ども支援、まずは子どもとの信頼関係を作ること」という言葉が印象深かったです。

午後は、7グループに分かれて、SST(ソーシャルスキルトレーニング)の演習を以下の流れで行いました。

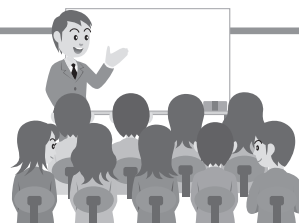
- ①練習課題(ターゲットスキル)を決める。特に児童生徒に練習させたい社会的行動を1つ決める。
- ②場面設定をする。
- ③改善点(望ましい行動)を実演を通して考える。

- ④学習した望ましい行動を学級内(家庭)で実行するための宿題を考える。

最初は、ぎこちない話し合いでしたが、次第に白熱しいろいろなアイデアが出されました。各グループが発表した内容は、当センターのホームページに掲載してありますので、是非ご覧ください。

参加された方からは、「気がかりな子自身への個別支援だけでなく、学級全体の支援という観点で話し合えてよかったです」「子どもの状況を把握し、スモールステップで支援していくことの大切さを改めて認識しました」「今回のワークショップでは、頭だけで考えるのではなく、ロールプレイを通して考えてみることも大切だと感じました」という感想がありました。

研修講座の記録はDVDにしてあります。希望者への貸出をしておりますので、当センターにお問い合わせ下さい。



子どもに
なりきって…

特別支援教育 あらかると

今回は青年、高校生に対する支援について紹介します。青年への支援として重要な「面談」について、日頃多くの相談をされている、ふくい若者サポートステーションの齊藤荘二先生にお聞きしました。また高校生については新たな取組である「高等学校巡回教育相談会」を取り上げました。

面談において心がけていること

ふくい若者サポートステーション 総括コーディネーター 齊藤 荘二 氏(臨床心理士)



1 なぞりながら聴くこと

発達障害と診断された若者との面談で、私は“なぞりながら聴くこと”¹⁾を心がけています。つまり、主訴をめぐる彼らの一言一句を、ドラマの筋をなぞるような気持ちで追いかけます。途中で、“…ん？”と話をなぞりきれなくなったときには、もちろん待ったをかけます。わからないまま先に進むことは失礼だからです。そして、理解できた要点(訴えたいことと、これにまつわる気持ち)を、こういうことかな？と言葉で確認するのです。このように面談を進めると彼らは必ず安堵します。話が聴き届けられたと実感するからでしょうか。また、要点の共有は課題解決のための足がかりとなり、彼らと私にゆとりをもたらすように感じています。

2 “主体性”に心を傾けること

私が心を傾けるのは、彼らの、①課題解決への自らの取組、②これに伴うおのれの感情との向き合い、そして、③結果に伴う自己評価や自己肯定感の獲得です。彼らが何に向き合い、何を感じてどうしようとしたのか？うまくいったのかいかなかったのか？そして、一連の出来事の中で自信を得たのか失くしたのか…。なぞりながら寄り添っていくうちに“主人公”の苦悩や喜びが感じ取れるように思いますし、感じ取れたことを言葉にするなどして共感します。“君の心の動き、それはまさに、あたりまえの人間心理そのものではないか”と伝えていくのです。

3 的確なアドバイスを工夫すること

彼らの話を聴いているうちに、“え？どうして〇〇をしなかったのかな…？”と彼らの判断の狭さに気付きます。尋ねてみると、「そんなこと、まったく思わなかった！」という答えの返ってくることが多いように感じます。私は、視点を変えてみるようアドバイスしますが、具体的に、そして、ホワイトボードに図示しながら論理的かつ緻密に説明する方が彼らには「わかりやすい」ようです。また、選ぶべき行動を倫理規範や法的根拠の面などから検討することも効果的だと感じていますが、今後、経験を重ねる中で確かめてみたいと思います。

1) 下坂幸三：心理療法の常識、金剛出版、1998.

高等学校巡回教育相談会について

県立高校教育課特別支援教室より

高等学校の相談担当者や特別支援教育コーディネーターを対象に教育、医療、福祉、労働の専門家による「高等学校巡回教育相談会」を下記の日程で実施しました。この相談会は、発達障害のある生徒だけでなく、不登校、いじめ、情緒の問題など高校生の様々な相談にも対応できるように設定したものです。また教育研究所、特別支援教育センター、特別支援学校と連携して継続的に相談できるように配慮しました。

【相談日、会場、件数】

相談日	会場	件数	総相談件数：28件 (うち本人や保護者の相談：5件) ・発達障害関連：12件 (うち就労5件、進学3件) ・不登校・精神障害・その他：16件 (うち発達障害も考えられる事例：3件)
5月20日	嶺南教育事務所	7件	
7月 3日	特別支援教育センター	10件	
7月27日	南越養護学校	6件	
8月17日	特別支援教育センター	5件	



今年度初めての試みであったこともあり、想定していた相談件数よりも少なかったのですが、その分、十分な時間をかけることができました。対応が難しいケースもありましたが、専門家に話を聞いてもらうことで安心したケースや、連携機関が継続してかかわったケースもありました。

なお、この高等学校巡回教育相談会は特別支援教育に関する高等学校における専門家チーム会の役割を担っております。手続き等を簡略化して、次年度も引き続き実施していく予定ですので、各高等学校の積極的なご活用をお願いいたします。

大野市有終西小学校 わかば学級・あおば学級

本校の特別支援学級
「わかば」「あおば」の在籍児
童数は9名。通級中の子どもも含めて、
一人一人に応じた支援ができるように、個に
応じた教育課程を組みながら学習を進めています。
6年間の長いスパンで子どもの成長
を見つめていきたいと考え、毎年の
繰り返しの活動も大切にしています。



学校のすぐ横には、亀山や越前大野城があります。本校
では、4月から10月までの6か月間、週に2回、亀山マラ
ソン(1・2年はグランドマラソン)に取り組んでいます。
階段や坂道を登っていくのは、なかなか大変ですが、「わ
かば」「あおば」の子たちも、交流学級の子たちと一
緒に頂上をめざし毎回がんばって走っています。
道をそれてしまい一人では走れなかった子も、
今では完走出来るようになりました。



本校は、学びの里「めいりん」内にあり、社会教育施設と
融合された学校です。この特徴を活かし、私たちも様々
な人たちとふれあっています。学級独自の活動として
「ミュージックケア」や「ニュースポーツ」を実施したり、
交流活動の中で、「あみもの」「お茶」に参加したりして
きました。「人と適切に関わる力」をつけていく上で、担
任以外の方々とふれあう機会は大切です。
人間が大好きで、関わることを喜べる子に育ってほ
しいと願っています。

学級独自で5年間ずっと続けてきてい
るのが「のりもの」を柱とした生活単元
学習です。(詳しくは、実践障害児教育5月
号「読者の実践ダイジェスト」に載っています。)今年も
11月に「たけふ菊人形」に行ってきました。2か月間「お
手伝い大作戦」をしてためたお金で、市バス代と乗り物
フリーパス券代を払いました。毎日忘れずお手伝いをし、
こづかい帳をつけ、何円たまったか計算していく中で、
お金の扱い方もずいぶん上手になりました。中には、と
てもたくさんためて、ソフトクリームやジュースを自分
で買って食べた子もいました。また、菊人形展の中では、
「指令書」に書かれた5問の指令をクリアしながら見
て回りました。指令に書かれた場所で一緒に写真
をとったり、説明書きを読んだりしながら答
えを探し、力を合わせて指令をクリア
していきました。



受賞された皆様

平成21年12月末現在

福井県教育委員会教育功労賞

前田 照樹氏 越前町立宮崎小学校 前校長
渡邊 正博氏 福井県立嶺北養護学校 前校長

全日本特別支援教育研究連盟功労者表彰

前田 照樹氏 越前町立宮崎小学校 前校長

福井県特別支援教育研究連盟功労者表彰

<感謝状>

高芝 和彦氏 福井県特別支援教育研究連盟 前会長

<永年勤続30年>

数馬真理子氏 福井市足羽小学校 教諭
廣場 典子氏 福井県立福井養護学校 教諭
藤田 初代氏 福井県立嶺南西養護学校 教諭

<永年勤続20年>

酒井まゆみ氏 鯖江市中央中学校 教諭
藤嶋 恵氏 福井市成和中学校 教諭

江守奨学会教育奨励賞

松村 幸恵氏 福井県立福井東養護学校 教諭
山本 巧氏 福井県立福井南養護学校 教諭
福井県立ろう学校 小学部

編集後記

今回は、当センターの教育指導や研修事
業についてご紹介しました。

当センターでは、「すくらむ」について、
皆様からのご意見・ご感想をお待ちしてい
ます。

センターだより すくらむ 第74号

発行日 平成22年1月13日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1
TEL(0776)53-6574 FAX(0776)52-6272
E-mail info@fukuisec.jp
URL http://www.fukuisec.jp
福井県教育庁嶺南教育事務所特別支援教育課
〒917-0241 小浜市遠敷2丁目205
TEL(0770)56-1095 FAX(0770)56-1391
敦賀駐在 TEL/FAX(0770)24-0421
印刷所 株式会社エクシート